
ネギま！に転生？ワロスwww

つくね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネギま！に転生？ワロスwww

【Nコード】

N8016M

【作者名】

つくね

【あらすじ】

俺は転生した、でもニートしてますwwwあつ転生した場所はネギま！で木乃香の兄だよ、でもニートしてますwwwチートだよ、最強だよ、でもニートだよwwwそんな主人公ががんばるお話www

ブローグww(前書き)

頑張って完結目指します

ブローグwww

まずめましてwww

俺よくわからないまま死んじやってそしたら神様が来て「お前面白いから転生おk? wwwwてかさせるwwww」って言うてきたから「okwwww把握wwww」てな訳で転生する事になったwwww
あつちなみに俺チートwwww

だって魔力と気は努力しだいでいくらでも増えるし、無限の剣製貰えたし、テイルズの技使えるらしいし……フヒヒwwwチートwww

そして転生する世界はネギま!……これについては神様に決められた、なんでも「茶々丸サイコーwwww」だかららしい。俺主なキャラの名前しかしないのに

そして俺は転生した

1話 神鳴流とかwww(前書き)

短いです

1話 神鳴流とかwww

二一八才www転生した主人公ですwww

名前が決まりました。このえあき近衛秋です

もうわかる人が居るかも知れないけど近衛木乃香のにいにいににになりますたwww

コンコン

俺の部屋のドアを叩く音が

「お兄ちゃん、ここあけて〜や〜」

「木乃香か、開いてるから入って来い」

「わかつたえ〜」

ガチャガチャガチャ

「ごめんwww俺二一トだから基本鍵掛かってんだったwww
ww」

ごめんなさいwww転生してからずっと二一トしてますwwwてか
生まれて3年しかたつてないけどwww

「…………お兄ちゃん、はよあけて？」

ドアの向こうから2才と思えない程の殺気が！

「だか断る！」

「・・・・・・・・・・」

それから木乃香愛用のハンマーでドアが破壊されていった

「お兄ちゃん、はよあけなドアのない一年ん過ごす事になるえ」

またドンドンとドアが破壊されていく

「木乃香待つて！ホントに待つ、ってギヤアアアア！」

ドアが壊されてきてドアの隙間から木乃香の目が見えてきた・・・・・・
・つか木乃香が光ってるｗｗｗｗｗｗ

「おゝにゝいゝちゃゝんゝはよ開けてゝ」

「わかった！わかったからそれ以上ドアを壊さないで！あと木乃香めっちゃ怖い！」

根気負けしちゃいました

「もゝはよ開けんからあかんのやで？」

結局ドアは半壊してしまった

「ところで木乃香何しに来た？」

「えつとな、一緒に遊ば思ってた？」

いや、首を傾げられても

「やだ、俺はこれからゲームする」

そう言つてPSPでゲームを始めた

「・・・・・・・・えいつ」

可愛いらしい声とはうらはらにハンマーでPSPの画面を破壊された

7

「ギヤアアア！！PSP！、画面！、PSP！、データアアア
！！」

「ややわゝ急に叫んで」

ニツコリと笑顔です

「・・・・・・・・何をしましょうか？」

とにかく木乃香をこの部屋から追い出さなければ

「そやなゝ、お兄ちゃん何した「ゲームがしたいです」んゝそや！
はねつきしよ！」

俺の意見は無視なのですな

庭

「お兄ちゃん！いくえゝ・・・はい！」

羽がポーンと飛んできたので

「ジャックナイフ！」

テニプリの技をやってしまいました

「キャッ、お兄ちゃん。どこでそんな技覚えてきたんや」

ツッコむ所はそこですか

と言つかやっぱり転生したからかな？体が軽いや

「木乃香、秋、楽しそうだね」

お父様襲来！

「あっお父様やゝ」

トテトテと父さんの方に走って行った

「どつたの？仕事は？」

「今少し時間があいたから少しね？」

さすが！親の鏡だね！……でも俺は見逃しません、此処に来た1番の目的は此処に居る巫女さんが目当てだって事を！

「ところで秋、さっきのその動き」

「ん？それが？」

「いや、別になにも（やはり私の息子か……できれば普通の子供として育てたいのですが……）」

父さんが何かを考え始めた

「……秋、少し来なさい」

「……わたし何かしたでそうか？」

詠春自室

所変わって父さんの部屋に来た

「・・・秋、今から言う事は真実です」

いつになく真剣だ

「・・・・・・・・・・はひwwwwww」

いつものように不真面目だおwww

「・・・・・・・・この世界には魔法があります、そして秋には魔力、気、身体能力、共に普通の人の倍あります」

はい、私がそうしたんさwwwwww

「ホントは知らずに生きてほしかったのですが、しかし秋の身体能力は異常です。だから秋には知ってほしい」

いらぬ心配をかけたな、父さん・・・・・・・・・・だから始めっから知ってんだってwwwwww

「秋、お前に神鳴流を継いで欲しい」

「（正直だるい・・・・・・・・・・待てよ俺が神鳴流を継げば、まあ確かに今はだるいかもしれないけど！けどだよ？師範くらいになれば生徒を少し見てるだけで金が入ってウハウハ人生突入！・・・・ハハッ俺勝ち組wwww）」

「父さん、俺継ぐよ」

立ち上がりながら言った

「そうか、ホントに済まないな……明日から道場に来てくれ」

「あい、（人生捕獲計画www）」

夜

「………寒い」

ドアが壊れたせいで隙間風がバンバンに入ってくる

1話 神鳴流とかwww(後書き)

主人公は神鳴流を継ぐ事にwww

2話 刹那www(前書き)

なかなか長く書けねえゝ

2話 刹那www

神鳴流始めて3年たちました

「フヒヒwwwwwwほぼ覚えたwww」

やって3年たった今、神鳴流のほとんどの技を覚えた。父さんが言うに「まさか私の息子がバグキャラだったとは」、とか言われてやんのwww俺www

あと暇だからテイルズの技やったりしてるけど……

「フヒヒwwwwwwほぼ把握www」

こつちもかなりできたwwwさすが俺www

ちなみに基本俺の武器はテイルズのロイドが使ってたマテリアルブレドwww最初から最強武器使うとかwww

「フヒヒwwwwwwあつ！Amazonから荷物届いてるかな」

今もニート続けてますwwwそれで最近、神鳴流とニートの行き来で服を着替えるのが面倒臭いので一日中ジャージ着てますwww緑色のwww

「お兄ちゃん、今暇？」

おふっ！まさかの木乃香登場！

「今からニートになるから暇じゃな「暇やな、なら遊ばか！」木乃香の反抗期www」

やだ、今日は部屋に帰ってニートになるって決めたんだから

「（だが部屋に籠ってもまたドアを破壊されるのは目に見える・・・
・・・逃げよwww）」

「なああ？お兄ちゃ「さらばじゃ！」あっ・・・逃げよった」

よくわからな所の森

「・・・読んで字の如く・・・迷ったww」

いや、ね？最初は木乃香から逃げるためだったけど途中で速く走れる自分に感動して走り回ってたら・・・迷ったww

「ニートが調子に乗るとこうなるのか・・・フヒヒww・・・
・どしよ」

真剣に考えたらヤバくね？6才の子供が森に迷うとか

「ん．．．．．ん？女にゃの子？」

しばらく歩いていると女の子が木にもたれかけながら寝ていた

「この子も迷子か？．．．．．どしよ．．．ほつとk．．．待てよ俺、俺はいつから鬼畜になった．．．起きるまで待つか」

待ってみる事にした

Seed刹那

「んっ．．．寝てたんかウチ．．．ん？誰やる？」

なんで私が此処で寝てたかと言うと、私は烏族と人間のハーフでその両親ももう死んじゃって里で一人で暮らしてたけどやっぱり烏族とのハーフって事で追い出されて．．．

「．．．それより、なんなんやろ？この子？」

私より一つくらい大きいと思う．．．てかなんでジャージ？

「．．．．．ん？、ああ寝てたのか？おっ！起きてんじゃん！」

「あっあの、だ、誰なん？」

「えっと俺は近衛秋、秋でもなんでもいいぞ、てかお前は？」

「さっ 桜咲刹那」

「（どうかで聞いた名前だな）・・・そっか、じゃあ刹那は何で此処で寝てたんだ？」

「・・・うち、里を追い出されて・・・いく場所ないねん・・・」

この翼があるから・・・

「（重いなおい、）・・・そうか・・・なら俺の所に来るか？」

「え？・・・あかん、うち・・・迷惑やし」

結局は翼がばれたらまた捨てられる

「・・・・・・来い」

「へ？」

「だから、来い。お前がなんだって受け入れてやるから」

やんだかその一言がすごくうれしい

「・・・なっなら・・・これ見てもそんな事・・・言える？」

うちは禁句とされているうちの翼を出した

「・・・・・・」

やっぱり……………

「まあ、あれだ……………すっげー綺麗だけど？」

え？

「き…………気持ち悪くない…………ん？」

「俺は…………好きだけど？」

ああこんなの俺らしくねえwwwつと最後に言いながら後ろを向いてしまった…………まあそのおかげで

「…………ヒック…………うつ…………グス」

うちが泣いてる顔を見られないですんだけど

恥ずかしい……………まだ名前しか知らない男の子の前で泣いて

「なあ…………さっきの話、まだ間に合う？」

「・・・・・・・・なら、帰ろつか？」

Side 秋

何とか家に着いた・・・・・・・・けど

「・・・・・・・・秋、その子は？」

父さんに見つかったwww

「ああ・・・・・・・・飼っていい？」

「捨てられた子犬か！・・・・・・・・しかし・・・・また」

多分刹那の翼の事なんだろうな

「あ・・・・・・・・あの、うち何でもします！だから・・・・」

父さんに頭を下げてるwww

「・・・・・・・・ちゃんと面倒見るから・・・・散歩もするから」

「だから捨てられた子犬！？・・・・・・・・まあいいでしょう」

おお、おkもらえるとは

てな訳で刹那を家で飼う事になったwww

自室

「……………あっクーラードリンク忘れた……………」

はい、今モンハンやってます。たまに有りますよね？砂漠でクーラードリンク忘れる事

「あれ？ドア半分ない」

サーセンwwwまだドア直ってませんwww三年たったのにww

「つか何しに来た？刹那」

「え？あ……………あの……………ひ……………一人じゃ……………淋しくて……………」

「……………俺は淋しくないよ」

とりあえず早くディアボロス倒さねえと

「……………う……………うちが……………淋しくて……………」

森で一人で寝てたんだから大丈夫でそ？

「・・・・一緒に寝う？」

「はい！」

と言って俺の布団の中に入ってきた

「・・・・・・グハッ・・」

ちくそう、友達に尻尾の避けかた教わつとけば

2話 刹那www（後書き）

刹那の口調わかね

3話 誘拐されますたwww(前書き)

フヒヒwwwブルジョアだからそうなるwww

3話 誘拐されますたwww

刹那を拾って半年たった

「せつちゃん、いくえ」

「う、うん。わかったよこのちゃん」

木乃香達がケマリで遊んでいますwwwお前らいつの時代の人だよw
ww

あつちなみに俺は最近神鳴流とかやってないwwwしかたないじゃないか！だってニートだものwwwwww

「……てか木乃香」

「なんえ」

「そろそろ縄解いてくんろwwwオシッコ漏れそwww」

実はさつきから縄でぐるぐる巻きにされて動けませんwww

「そんな事言っただけで逃げるつもりやろ？」

「当たり前wwwってイタタチwwwイタタチってwww」
w

当たり前って言ったあと蹴りのラッシュwwwお前ホントに5
才だよwww

「せつちゃん助けてwwwマジ痛いwww」

「痛そうにみえへんのやけど？」

ちよwwしかたないじゃんwww俺そう言う人なんだからww
ww

蹴りのラッシュが終わったのは夕方だった

「皆、少し集まって」

夕飯を食べた後父さんに呼ばれた

「少し用事で西・・・東京に行って来るからその間留守番をして
てくれないか？」

「・・・おkwww把握www存分に楽しんできてw
wwwwwwww」

「すごい楽しそうだね」

だって家に親が居ない〓俺ニートになり放題wwwあつ俺たい
ていニートだったwww

うちも布団に入った

誘拐犯

「兄貴、ホントに大丈夫なんですか？此処めちやくちやデカイじゃないですか」

「大丈夫だ、今何故か知らないが此処の警備員やらなんやらはどこか行つて居ない。あと此処に居るのは此処のガキと巫女さんだけだ、それにこっちは10人も居るんだ負けやしねえ」

そう言つて子供が居るであろう場所を目指した

「兄貴！子供居ましたぜ」

「おお！・・・・・・なんでドア半壊してんだ？」

確かにドアの奥に子供が三人居るがドアが半壊してる

「・・・・・・まあいい、連れてくぞ」

とりあえず三人共アジトに連れて行く事にした

アジト（Side 刹那）

「……………んっ……………ふぁ……………よお寝た……………え？何此处？」

どこか知らないがロープで体の身動きを封じられて動けない……………
…あとドラマの不良がいそうな場所だ

「どないしょ……………！！、このちゃん！何で居るん？」

隣を見たらこのちゃんも同じくロープで縛られていた

「ん？……………あぁ…せっちゃんどないしたん？って何でうち動けないの？」

「しらんけど……………秋君もおるみたいやけど……………」

「グア〜！グオ〜！スイース（笑）グオ〜！」

「……………寝てるな、このちゃん」

「うん、だって睡眠薬だもの。せっちゃん」

私はこのちゃんが怖い

ガチャ

近くのドアが開いた

「…………あ？……ちっ、おい！ガキが二人起きてるぞ」

男の人が入って来た後にそう言ってどこかに行った

「このちゃん……はよ逃げな」

うちはこのちゃんに質問した…………けど

「…………えい！あつ……失敗や……えい！……また失敗や」

ポッケに入ってる睡眠薬を飲もうとしてるがロープで縛られているから口元にまで手を持っていけないから投げて飲もうとしていた

「（…………現実逃避なんか？そんなに今の状況を見たくないんか・
）…………このちゃん、現実を見よ？」

「冗談やんか」

目が泳いでる泳いでる

「…………そや、お兄ちゃん！お兄ちゃん起こそ！」

「なんで？秋君起こしてもかわらへんやろ？」

失礼やけど秋君起こしてもなんも変わらんと思っんやけど

「えっとな？お兄ちゃんって以外と強いんやで」

「・・・ごめんね？このちゃん、信用してない訳じゃないけど秋君が強いとは思えへん。だって秋君一日中部屋でゲームしてるかひなたぼっこしてるか下痢になってる所しか見た事ないから

「信じられへん」

ごめんねこのちゃん

「大丈夫やって」

それでもこのちゃんは笑顔や

ガチャ

またドアが開いた

「あゝ・・・起きてるな・・・おい！ガキども、騒ぐんじゃねえぞ？」

屈強な男の人達が6人くらい入ってきた

「・・・あつ秋君、起きて」

でも返事をしてくれない

「おい、こいつらの親に電話したのか？」

「したんだが、かからなくて」

どないしょ、男の人達がイライラしてきてる

「ああ、秋君「五月蠅いぞ！さつきから秋君、秋君って！」ひっ

怖いよ

「・・・・・・・・はっ！木乃香！お前は俺に何を飲ませ・・・・・・・・
此処どこ？あと俺なんでロープで縛られてんの？www俺はどっち
かって言つとSだぞwww」

やっと起きた

「秋君、うちら捕まっ たみたいなんや」

まだ状況がわからない秋君に状況を説明した

「フヒヒwww何？俺捕まっ たのwwwブルジョアも大変だあゝ
wwwwww」

いつもと変わらない

「フヒヒwwwあつ 木乃香は？」

そや、さつきから喋ってへんけど

「・・・・・・・・すうゝ・・・・・・・・すうゝ・・・・・・・・」

・・・・・・・・飲んだんやね？睡眠薬・・・・・・・・卑怯者

「寝てるwww最悪だおwww」「五月蠅いんだよ!」「サーセンw
ww」

ほんまに変わらへん……でも何だか落ち着いてきた

「ああゝもう、めんどいな。なあ!ガキの男の方殺していいか?」

え?

「べつにいいんじゃない?男の方が居なくても二人居るんだし」

どうもないしよ、秋君が殺されてしまう

「ちょww俺こゝろゝさゝれゝるゝwwww」

「そんな事言つとらんと真剣に考えな!……こつ殺されて」

そんなんいややで……うち

「おい、お前名前は?」

なんで名前?

「えつと……桜咲刹那」

え?なんでうちの名前

「そつか、なら大丈夫だ……バイバイ」

そう言つて銃口を秋君に向けて撃つた

3話 誘拐されましたWWW（後書き）

続きます

4話 学園生活WWW（前書き）

続きです

4話 学園生活www

Side 秋

どうすようwww俺起きたらピーンチwww

「(・・・ま、どうにかなるけどねwwwwww)」

だって俺チートだもんww神鳴流とかテイルズとか出来るもんww
w武器は無限の剣製あるからあと少しだけど魔法使える・・・
フヒヒwwwスイツ(笑)

「おい、お前名前は？」

何故に？・・・ああ俺が近衛かそうじゃないかを知りたいんだww
ww

「あゝ・・・桜咲刹那」

さあ来い！俺は桜咲刹那なのだからお前の不安材料はなくなっただ
ろ？早く暴れさせろ

「そうか、なら大丈夫だ・・・バイバイ」

そう言うって銃口を俺に向けて撃った

けど

デフレクシオ
「風楯」

魔法の盾を出して防ぎますたw w w w w

「なっ！という事だ！」

また撃ってきたけどまた防いだ

「フヒヒw w w もういいや、^{トレス・オン}投影開始w w w つて厨二くせw w w
w」

作ったのはみんなご存知マテリアルブレード、それでとりあえず口
ープを切った

「フヒヒw w w パーチーの始まりだおw w w w w」

「くっテメエラ！このガキ潰すぞ」

ぞろぞろとムサイ男がやってきた

「ちょw w w ムサイってw w w 少くらい女の子入れよw w w w w」

「……………てか正直たるな……………一気にかたずけちゃお

「神鳴流奥義、百花繚乱w w w w」

めんどくさいので始めっから奥義使用ですw w w w w それで10人
くらい気絶？か死んだw w w

「ちょw w w 俺人殺しw w w ……でもいつかw w w w w」

あと5人どうしてくれようw w w w w

バツン！！

近くのドアが勢いよく開いた

「秋！木乃香！刹那君！大丈夫か！？」

・・・・・・・・・・

「なんで来るんだよ・・・父さん・・・」

今から俺無双しようよ・・・あ！そだ

「・・・・・・・・父さん！こいつらに木乃香が・・・・・・・・木乃香が」

どうせならボッコボッコにしてやって

「なっ！・・・・・・・・貴様らあああああ！！！！」

そっからは父さん無双ｗｗｗｗ

「フヒヒｗｗｗｗあつ刹那大丈夫？」

隅っこで小さくなっていた

「・・・・・・・・なんでそんな強いんや・・・うち馬鹿みたいやん」

何故泣く？

「いや、なんで泣く？俺が何かしたみたいじゃん」

「・・・・・・・・・・なんでもない・・・・・・・・それより・・・・・・・・帰ろ」

翌日

「せつちゃん！いくえ」

「うっうん、このちゃん」

またケマリしてるwwwwww

「そして俺もまたロープで縛られてるwww」

しかも亀甲縛りwwwwwwグレードアップしてるwwwwww

「……あの、木乃香さん。なんで俺は縛られて？あとなぜ亀甲縛り？どこで覚えた？」

ホントに意味がわからない

「だってお兄ちゃんほつといたらずっと部屋おるやろ？」

「まあ、否定はしない！！」

力強く言ってみた

「……せつちゃん、池の方に遊びに行こ」

え？

「でもそこは危険やから近付いたらあかんって」

待って

「と言うか木乃香？それ俺を置いてってって事？」

「……大丈夫やって、とにかく行こ」

無視した上、放置ですか！？

「うつ……うつん」

そして二人でトテトテと行った

「……んしょ、ぐお！よりきつく！」

自力でなんとか抜け出そうとしたけど違う何かがぬけそうになった

「ふっ！はっ！あん！……ちくそう……抜け出せな「バシャ
ン！」「バシャン？」

何かの音が

「ハア、ハア、秋君！助けて！このちゃんが！このちゃんが！」

「ん？うん、わかったけどとりあえず亀甲縛りを解いて」

河

行ってみたら木乃香が溺れてたので助けますたwww

「いいか木乃香？俺を亀甲縛りにして置いて行くからあんな事になるんだぞ」

べっ別に置いて行かれて淋しかったわけじゃないんだからね！（くぎみーボイス）

「うん、今度からは適度に動けるように縛る」

そうじゃないんだよなあー

「ヒック、ごめんな？このちゃん、うちなんもできんで」

こっちは泣いてる、てか刹那お前よく泣くな

「別にいいよ、うちが悪いんや。お兄ちゃんが行くなゆうつのに行ったで」

「まあ今回は行った木乃香も悪いし、ついて行った刹那も悪いし、

止められなかった俺も悪かったって事で。刹那もあんまり悩むなよ？お前は変な所で真面目だから」

まあその日は三人で父さんに怒られた

あと何故かその日から刹那は神鳴流を習い始めた

6年後

どうも、皮が二つの意味で剥けた秋です

木乃香は7歳になると同時に麻帆良学園に入学しに行った、まあかなりしぶってたけど

刹那は木乃香が中学一年になると同時に麻帆良学園に行かせた、まあやっぱり妹は可愛いものなんですよ

俺はというと父さんと一緒に神鳴流とかいろいろやってる、もちろんジャージ（緑色）で

「…………あれ？…………父さん」

「なんだ、秋」

書類に目をとっしながら返事をしてくれた

「……俺何でこんな事してんの？俺も中学二年生くらいの歳なんだけど？」

「あつ……あゝ……」

何だか1番嫌な反応

「いや、な？秋は何だか大人っぽい感じがしてな？」

確かに精神年齢がいいオッサンだけどさ？

「は……って1番重要な事忘れてた……！」

「なっ何がだい？」

少しビツクリしながら聞いてきた

「俺何仕事してんの！？何でニートしてないの！？これじゃジャージ着て仕事してるただの変な人じゃないか……！」

「ニートも変な人なんだがね？」

クソ、何で俺こんな事を……！！

「おい！父さん！俺を学校に通わせる！素敵な思春期を満喫させる……！ちよつとエロスな単語が出て来るだけで以上な反応を見せる中学生にさせる……！」

「それはホントになりたいか？・・・まあわかった、今まで頑張つて来てもらったんだ。来年の新学期には麻帆良学園に送ろう、なら早くお父さんに話さないと」

そう言つと電話をしに部屋から出て行つた

「・・・いやフウ！！マジでサイコー！！」

そんな訳で来年から学園生活です！

4話 学園生活WWW（後書き）

次から麻帆良学園に行きます

5話 副担任www

はい、秋でえゝすwww

あれから一年たってやっと学校に行ける事になって今は麻帆良学園のぬらりひよんの部屋にいる

「で、なんで俺は女子中学の校長室に居るのかな？ぬらりひよん」

「実のお爺さんに向かってヒドイのゝゝゝ。実は秋には先生になってもえんかのゝゝと思つてな？」

ジジイが首傾げても可愛くないんだよ！死ぬか！ああ？

「やだ、俺が父さんに言つたのは学生になる事なわけ？わかる？高望みはしないよ、ただ共学で女子多めの学校に転入させてくれればそれでいいの！あと基本ニートでいられれば！それだけで」

「十分高いは、ゝゝゝ。そこを何とか頼めんか？ほら、担任になるクラスには木乃香がおるぞ？」

だから首を傾げるな！！

「勘違いしてね？別に俺ブラコンとかじゃないから、とにかく共学！で女子多め！」

「うつ、実は今年に秋も知ってるである？ナギ・スプリングフィールドの息子が来るのだゝゝゝ。気になるである？」

そろそろつざいぞジジイ

「別に？興味ないけど？あつそだ！ジャージ登校おkにしがれよ？」

もう俺普通の服もってないんだから

「んゝタカチミ君何とかならんかのゝ」

タバコくわえたタンディーな人に助けもとめんな

「・・・・・・そうですね、何とかならないかい？秋君」

ダンディーも乗るよ

「や　　だ！」

ホントにめんどい

（あ、あ、テステス、こちら神様どうぞ、）

なつ神が何故、まあとりあえず

（はい、こちら秋です。なんだよいきなりさ、どうぞ）

（いや、お前原作介入しようとしななんだもんwwwとにかく担任になれwwwそしてネギの茶々丸のフラグをぶっこわせwwwどうぞ）

（出来れ二一トで終わりたかったがwwwまあ、おkwww把

握wwwどうぞ)

そんな事がありますたwww

「で、どうかの？秋君」

あきらめの悪いジジイめ、よかるう

「okwwwwww把握wwwその変わりジャージでの登校をw」

「わかったwww」

「乗せられないください」

フヒヒwww伝染病www

「じゃあそろそろネギ君が来ると思っから「バツン！！！」ホレ来た」

ドアが開いてツインテールと赤髪と木乃香が入って来た

「ちょっと学園長！こいつが先生ってどういう事ですか！」

あつこ漫画でみた事ある

「あつ！お兄ちゃんやん何でこないな場所におるん？」

「ん？ああ俺お前のクラスの担任になるからwww」

フヒヒwwwやべwww妹の担任とかwww

「ってちよつとあんたも担任なの！？どうみても私達と歳あんまり
変わらないじゃない」

ツインテールの人が騒いでる

「はずめますてwww木乃香の兄の近衛秋ですwww」

「え！？木乃香あんたお兄さん居たの！？」

ビックリするww

「うん、言ってなかったけ」

なんか騒がしやつなwww

「ほら、二人とも。早く教室に戻って」

ダンディーが二人に言うと二人は教室に帰って行った

その後しずな先生と言う名のバインボインがやって来てクラス名簿
を渡されて今は教室にネギ君と一緒に向かってる最中なのです

「あつあの、えっと僕ネギ・スプリングフィールドって言います！」
ん？

「いや、知ってる」

だから何だい？

「そうじゃなくて貴方の名前は？」

「そう言う事ね、俺は近衛秋なんとも好きなように呼べばいい」

つかネギ君ちっさいなあゝあつ！まだ10歳だもんねwww

「なら秋さん、秋さんは何でジャージ何ですか？」

「これは俺のトレードマークだから」

「は、はあ」

まだわからなくていいんだよ、大人でニートになればわかるから

「付いたわよ」

しずな先生（と言うなのバインボイン）が言った

「はっはい！」

気合い入ってんなあゝ

「ネギ君から入りなよ、俺は後から入るから」

ただの善意だよ？別に黒板消しがドアに挟まってるとか関係なしに

気合い入ってんなあゝ

「ネギ君から入りなよ、俺は後から入るから」

ただの善意だよ？別に黒板消しがドアに挟まってるとか関係なしに

「あつありがとうございます、いっ行きます」

碇君が？

とりあえずネギ君が最初は黒板消しから始まりなんやかんやあつて皆にもみくちやにされてる・・・死ねリア充

「まつ待つてください！もっもう一人副担任の人が居るんです！」

もみくちやにされながら頑張つて言ってる・・・死ねリア充

「だからとりあえず席に着いてください！・・・は
い、じゃあ入って来てください！」

・・・死ねリア充っと思いつながらドアを開けた

ガラガラ

「死ねリア充・・・ああ先生になりました近衛秋です、
教科はいろいろ出来ます。あとジャージ（緑色）についてはノー
コメントで」

・・・

「（あれ！？何で皆こんなにリアクションがない！？やっぱり最初の言葉がまずかったか？）」

ホントに予想外デス

「あの、質問いいですか？」

あゝえっと、そだ朝倉南だ

「どうぞ南ちゃん」

「南ちゃん？まあいいや、秋先生はうちのクラスにいる近衛さんと何か関係は？」

いきなりくるか南ちゃん

「よそう通り兄弟だぞ、あと歳は木乃香の一つ上だ」

クラスがザワツとなる

こんなにアクションを求めてたんだよ俺はwww

「なら何で担任に？」

「ホントは普通に共学の生徒になるために来たんだけど何故か先生になってました、楽しかったです」

「作文！？しかしそんな適当な………考えてもしかたないか！なら次にこのクラスで好みの女性を聞いてみようかな！？」

フウ~~~~！！

何故に中学生男子みたいな冷やかしかた？

「んゝそだなあゝ・・・・・・・・」

クラス名簿を見た

「（正直ネギま！シラネｗｗｗｗラブひなはかなり見てたけ・・・・・・・・・・！！！？・・・何で素子が！？ラブひなの素子が！？あっそうか、此処ではアキラ的な人としてゲスト出演してるのか）」

「決まった？」

南ちゃんが聞いてきた

「お！そだな、大河内かな？」

と同時にまたフウゝ！っと言う中学生男子の冷やかしかたと大河内が真っ赤になった後何故か刹那から信じられないくらいの殺気を俺と大河内に向けたｗｗ

「なっならそろそろ授業しますね？」

ネギ君がそう主張してるので黙って後ろの方の席に移動した

「どっこいしょういち・・・・・・・・よろしくね、ちうたんｗｗｗｗ
ｗｗ」

座ったのはちうたんの隣ですｗｗｗｗ

「なっ！何で先生が知ってんだよ（小声）」

「ごめwww俺基本二ートだからwwwそう言った情報得意www」

ちうつたんが小声で喋ってるけどお構いなしに喋べるwww

「絶対に誰にも言つなよ！（小声）」

「okwww把握www」

フヒヒwww大声ですwww

「くぅ、あんたみたいなの知られるなんて」

ちうつたんよwwwそうがっかりするなwww

「てかあんたみたいなのってなんだよwww俺、木乃香の兄だぞwww」

「・・・そう言う所だよ、ハアマジでついてない」

ん？

「そらちうつたんは女の子だから付いてるわけ「そつちじゃねえ！」・・・コラ、長谷川。大声で喋るな、授業中だぞ」

そう言ううちうつたんは周りを見て自分に視線向いてる事に興奮・・・じゃなくて気付いて真っ赤になりながら席に座った

「ちうつたん、赤くなるのは初夜の時だけにしなさい。股間限定でwww」

「・・・・・・・・死ね、もしくは私が死ぬ」

・・・・・・・・うん！女子中も悪くないな（笑）

そんな登校初日でした

6話 先生一日目www

はい、秋なのです！

今はまだネギ君が授業してます、ちなみにちうたんは俺の言葉攻めに屈して寝てます

「（…………暇だなあ…………刹那で遊ば）」

よし、そうと決まれば。

「（前方に刹那の頭を発見！ちうたんの消しゴムで攻撃します）」

俺はちうたんのふで箱に入ってる消しゴムを取って小さくちぎって

「（…………行くぜ、ジャイロボール！）」

某野球漫画のサウスポーの人が得意なボールを投げた

バコッ！ガン！

あつ、当たったけど。消しゴムが当たった勢いで机に顔をぶつけて
気絶した

ヤバイ、皆俺と刹那を交互に見てる…………でもネギ君は気付いてないみたい

「（…………大人しくしてよ）」
大人しく席に着いた

一時間目に出た損害

重体 桜咲刹那 心に重体 ちうたん

無くなった物 ちうたんの消しゴム

二時間目

「ええゝ二時間目は私、近衛秋が担当させていただきます」

うわ、皆信用してない目だな

「えっと、何する時間？」

「お兄ちゃんが先生なんやで？自分で決めなや」

木乃香、それがわからないんだよ

「んゝ・・・なら英語をします！今から俺の言う事をリピートアフターミ」

何故みんなそんな「英語なんて出来るの？」見たいな目で見てきて、興奮するじゃないか

「ええゝつと、『YOU行っちゃいなYU』はい！リピート智代アフターミ」

「待てコラ！それは英語なのか！？違っだろ！あと智代アフターって言ったか！？何で途中でギャルゲーなんだよ！」

おおー凄いツツコミだな、つかいつ生き返った。ちうたん

「ほら、ちうたんやる。みんなやってるよ？」

ちうたんが皆を見た

「YOU行っちゃいなYU」

「パルさんよ、星が黒くなってますもう一度」

「YOU行っちゃいなYU#」

「木乃香さん、最後がシャープになってます。もう一度」

「YOU、いつ行っちゃいなYU / / / / /」

「大河内さんGOOD！！照れてる所がなんともし！」

あっちうたんが自分の席に戻って……寝た

二時間目の損害

重体 桜咲刹那 心にもっと重体 ちうたん

「ちなみに、『YOU行っちゃいなYU』はテストに出ます」

授業終了

保健室

「だから謝ってるでしょ？ごめんｗｗｗｗ」

「誠意が感じられないんです！」

今刹那の傷を治した所です

「つかお前いつから標準語に？」

実は10才くらいから会ってなかったからなあ

「その、私は秋様とそんな気軽に話かけていいような者ではないので」

あれ？でも普通に木乃香とは話てるよね？

「つか秋様ってｗｗｗｗあとならなんで木乃香とは普通に話てんの？」

「ホントはお嬢様とも控えた方がいいと思ってるんですが・・・このちゃんが喋りかけてくるから」

ん？

「俺も話かけてるじゃん、俺とは話たく」「そんなんやあらへん！」
おふっ！ビックリさせないで、心が弱いんだから」

まだ心は二トなんだから

「ホントはうちも秋君と話たい・・・・・・・・でもうち・・・・・・・・ハーフやから」

「・・・・・・・・よし！羽出せ、むしり取ってやる」

確か背中から生えてたよな

「まつ待つてつて！そんな事したらうち死んでしまっ！」

両肩を抱きながら後ろにさがった

「嫌なら気にするな！お前は俺が拾ってきた、言わばお前は俺の物なの？わかった？」

「え？うち、物なん？」

いや、んなビックリした表情しなくても

「当たり前だろ？だから次秋様wwとか言ったら捨てるからな」

「う、うん・・・秋さん／＼／」

まだかたいけど大丈夫か

「あつ秋さん、秋さんとネギ先生の歓迎会があつたんでした」

へっ

「ごめん、パス。俺今から荷造りとか二トとかしなきゃいけないから、つかお前も手伝えwwww」

「え！？ってちょっと待って！」

刹那連れてゴー！

女子寮

「って此処女子寮じゃないですか！？」

「ああ、ジジイに男子寮か女子寮のどちらかの管理人になってって言われたから女子寮にした」

刹那がジト目で見てきた

「なんで女子寮なんですか？」

「女の子が居るからだろうが、あっお前俺の部屋に住めよ？」

と言った瞬間真っ赤になった

「ななっ！／／何ですか！？確かに私は秋さんの物ですが／／」

モジモジすなや

「いや、俺はいいんだけど管理室が汚かったらダメだろ？だからお前も一緒に住んで掃除とかしろ。大丈夫だ、今はヒンヌーに興味ないから」

「あっそうですか………はい」

なにあからさまにブルーになってんだよ

「じゃ、掃除とかしてる。あっ二段ベットの二階は俺だから」

「って秋さんは何処に行っちゃった」

とりあえずお挨拶しに行かねば

エヴァンジェリン家

コンコン

「はい、あつ。秋先生いらっしやいませ」

おおゝ

「君が茶々丸か！ふうゝんなかなか可愛いな！」

「恐縮です」

ホントにおもしろいな

「茶々丸！タカミチでも来た、何だ秋先生じゃないか」

奥からエヴァンジェリンが

「・・・茶々丸ってメアドあるの？」

「パソコンのアドレスなら」

へへ「おい！」ん？

「なんだよエヴァ」

奥から出てきて今は俺の目の前に居る

「私に用があつてきたんだろ？何たつて近衛詠春の子供なんだからな？悪は倒さないとな？」

意味ありげに微笑んできたので

「茶々丸っていつからキティーの従者に「待て！何故貴様がその名を知っている！！」・・・茶々丸、キティーちゃんが五月蠅いから帰るね」

「はい、秋先生「おい！茶々丸まで私を無視」マスター、少しあちらえ」

そう言つと茶々丸はエヴァを子供みたいに抱き上げて奥に連れて行つた

「おい、こら！茶々丸！離せ！お前のマスターは私だろって！近衛秋！何処に行く！」

漫才に飽きたから帰る事にした。

女子寮

「ただいま、おおゝ頑張つたな？刹那」

荷物が全部片付いてる

「・・・ホントに疲れたわゝ少しはうちの事考えて」

汗が額に少し垂れてる

「フヒヒｗｗｗｗご苦労様ｗｗｗｗｗｗついでに料理作って」

俺駄目人間ｗｗｗｗｗｗ

「へ？りよ、料理？」

嫌な予感

「・・・・・・・・出来ないとか言うなよ？一応お前も女の子なんだからな？」

「うつ・・・・・・・・ごめんなさい、出来ません」

・・・・・・・・

「お前将来何になるつもりなの？料理出来ない勉強出来ない・・・・・・・・何ができるの？」

「うつ・・・・・・・・あつ秋君やって！「言つとくが！」「ん？」

「俺は一応、大卒程度の学力あるし料理も人並みに出来る。あと俺ん家金持ちｗｗｗｗ」

まあ転生する前は大学通ってたしねｗｗｗｗ

「うつ・・・・・・・・ならうち秋君のお嫁さんに「料理出来ない人はお断りです」なっなら！料理出来るようになったら結婚して！」

何故？

「やだよ、結婚する人くらい自分で決める」

「うつ・・・・・・・・ならうちどないすれば」

よよつと倒れた

「……めんどくさい、とにかく飯喰うぞ」

とりあえず炒飯でも作るか

「……はい」

元気ないなあゝ

とにかく！俺先生はじめました

7話 ドMWWW（前書き）

やっべWWW自分で何書きたかったのか忘れたWWW

7話 ドMWW

おはようございます、秋です

昨日は大変でした、料理は作らなきゃいけないしゲームのしまう場所
は違うは掃除は適当だし、で結局全部自分でやってたら朝です

「・・・使えない」

ちなみに刹那は起きてても邪魔にしかないので寝かしました

「なんか寝顔見てたら腹立って来た」

起こしてやる

「おい！朝！あ・さ！起きろ」

「んうゝ・・・あつおはよう・・・ございますうゝ・・・」

寝ぼけてやがる・・・ますます腹立たつ（怒）

だいたいニートなのに仕事してるって事じたいに腹立ってんのに自
分の家の掃除まで・・・これじゃ独身男の毎日じゃん！出来
の悪いペット（刹那）飼ってるし

「・・・ピーマン朝飯に混ぜてやる」

刹那はピーマンが大っ嫌いです

「皆さん、おはようございます！秋クッキングの時間です」

自分でワァ〜っとエキストラの役をやって

「それではクッキング開始です、まずピーマンを3個用意します。
軽く水洗いしたら胡麻搗りで種も取らずに混ぜます、ガンガン！混ぜます」

グルグルグルグル

「はい、このように緑の物体になったらパンにたっぷり塗って出来上がりです！」

名付けて緑の固形物です

「ほら、刹那。朝ご飯だぞ」

近くの机に置いた

「はい、いただきます」

そして緑の固形物を口に運んだ

「うわ！何ですかこれ！」

若干涙目になりながら訴えてきた

「文句言わない！料理出来ないくせに」

そう言って自分のパンにイチゴジャムを塗った

「ああゝ・・・秋さん！何でも言う事聞きますから私も普通のパンを！」

両手を合わせながら涙目で訴えてくる

「馬鹿め、お前は元々俺の物！何だからそんなの通用するとても？」

「ううゝ・・・パクツ・・・ヒック・・・苦い」

・・・あの、やめて？泣きじゃくりながら緑の固形物を食べるの。
俺悪い事してるみたいないな気持ちになるじゃん？（自分が酷い事して
る事に気付いてない）

「（・・・ま、いつか！早く食べよ）」

刹那が泣きじゃくりながら緑の固形物を食べる姿をおかずに普通の
パンを食べた

「ほら、早く行かないと遅刻するぞ」

「・・・はい・・・苦いなあゝ・・・チラッ」

舌を出しながら苦い事をアピールして俺を見てくる

「・・・・・・・・捨てるぞ」

「ごめんなさい」

すぐに頭を下げてきた

「フヒヒｗｗｗｗブルジョアサイコーｗｗｗｗ」

学校に向かった

授業中

「はあ・・・・・・・・暇だ」

ネギ君が頑張る姿見てもおもしろくないしな

「ちうたん、暇」

でもちうたんはパソコンをしていて無視

「・・・・・・・・えつとたしか」

ポッケから出したのはちうたんの等身大ポスター、どうやって入れてたかは内緒だよ

とりあえずポスターを教室の後ろに張ってみた、まだちうたんは氣付いてないみたいなので教えてあげよう

「ちうたん、ちうたん」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

無視かよ

「ちうたんの等身大ポスターが教室の後ろに張ってみたんだけどどう?」

言ったと同時にちうたんが勢いよく後ろを振り返った

「なっ!・・・・・・・・どういっつもりだよ!」(小声)

ポスターを剥がしてからあくまで小声で言ってきた

「だってちうたん無視するんだもん」

「お前の相手は疲れるんだよ!」(小声)

そんなに目立つのがいやなんだ

「つかお前の相手はそこに居るだろ!」(小声)

はい、授業始まる前から睨まれています。誰かって?キティーだよ

「やだよ、あいつめんどくさいんだもん」

「私はお前がめんどくさいんだよ（小声）」

それを最後にちうたんはパソコンに向かった

しかたない、キティーの所に行くか

「ハロー、キティー」

「繋げて読むな！」

おおー授業関係なしに大声だ

「何そんなにキレてんの？生理？・・・まだないか」

「あるわ！それと“まだ”ってなんだ！？“まだ”って！生理くらい数えきれないくらいになあつたわ！」

ふうーん

「エヴァンジェリンさん、授業中に卑猥な事を言わないでください。先生近頃の中学生の淫らな感じ嫌いです」

先生つばく叱ってみた

「くうー！貴様言わせておけば！」

きーんこーかーんこーん

「それでは授業を終わりますね」

ネギ君がそう言っ て授業が終了した

「じゃ、キティー。俺お腹空いたから家帰る」

ガシ

肩を掴まれた

「待て貴様、まだ一時間目だし貴様は教師だろ」

それが言いたいだけで茶々丸に俺の肩掴ませるなよ茶々丸困ってる
じゃん、いくら自分が届かないからって

「だって俺の授業5時間目からだから」

「なら何で教室に居るんだ!!?」

ユラユラ

茶々丸にユラユラさせるなよ

「てか何なの?お前さつきからちよっかい出してきた、お前はあれ
か?好きな子をちよっかいしたくなる小学生か?」

「誰が小学生体型だ!!」

.....めんどくさい

「茶々丸、これから一緒に食事しない？大河内も誘うつもりなんだけど」

「いえ、私は食べたり出来ないの」

「そうか、しかたない「おいゴラ！何無視してくれてんだ」……・めんどくさい、お前マジでめんどくさい！」

さつきから喋ることにキティが殺気が増すし

「一番めんどくさい奴に言われたくない！」

早く飯食いながらエロゲーしたいんですけど……いや、飯食いながらエロゲーは気持ち悪くなるな

「……わかった、面白い情報その1。ナギ・スプリングフィールド生きてまゝす」

って言うのとビックリした表情で少しの間固まった

「じゃ、茶々丸またね「待て！何で貴様がそんな事を知っている！……もつとめんどくさい事に」

漫画は5巻まで見たから立ち読みで

「なんだよ、もういいだろ？面白い情報あげたんだから」

「だから何で貴様がそんな事を知っているのかと聞いている!!」

茶々丸を退けて俺に飛び掛かって来た

「ああ、何でもいいだろ？生きてんのは確かなんだから」

そう言っていると離れた

「そうか、アイツは生きているのか！フハハ！」

「……茶々丸、バイバイ」

「はい、秋先生さようなら」

律儀に頭下げて、いい子やね

「フハハ！って近衛秋は？」

「先程帰られました」

昼休み

「ハア……木乃香、お茶」

「はいな」

ズズッ

「プハア………木乃香卵焼き」

「はいな」

ヒヨイ、パク

「プハアゝ・・・木乃「秋さん、何でもいいですから動きまじょうよ」・・・そうだね」

だって木乃香の隣でボーっと座ってて、試しに「お茶」って言うたらくれたんだもん

「・・・ニートになりたい」

「藪から棒になんですか？というか基本ニートじゃないですか」

あのね？

「お前が俺の部屋に住んだら楽になるかな？と思ったけどお前邪魔なだけだ「ちよつと待ったあ！！」なんだい朝倉」

「今聞いたんだけど刹那さんと秋先生つて一緒に住んでるの？」

「そうでげすけど何か？wwwwwwww」

朝倉がビツクリな表情を

「いいの？そんな簡単に認めて？教師でしょ？」

「教師である前にブルジョアですwwブルジョアである前にニートですwwwwだから別に問題ないだろ？wwwwwwつか刹那の

「・・・刹那大好き」

「え？ホントですか！？／＼／」

「ごめん、冗談」

あつまた泣いたwww

「お兄ちゃん、もう少し女心をわからなあかんわ」

だって男だもん、だってニートだもん、ギャルゲーの女心ならわかるのに

「・・・どうしたらいいですか、木乃香さん」

「そやなあゝ・・・ゴニョゴニョ」

「おふっ！俺は耳が性感帯なのか、しかし。わかったやってみよう」

大丈夫、俺なら出来る

「刹那」

「ヒック、エッグ・・・何ですが」

めっちゃ泣いてるやん

「お前は俺の物！しかも一生だ！魅力があるとかないとか関係ないの！お前は俺の側にいなさい」

木乃香いわく「せつちゃんドMやから強く言ったら何とかなるで」
・ ・ ・ 女心は何処に行った

「はっ ・ ・ ・ はい／／／」

作戦大成功www

ちなみにこのあとネギ君がいろんな人に追い掛けられてたけど ・ ・ ・
・ ・ 無視しましたwww

7話 ドMWWW（後書き）

どうしよう、先の事考えてない

8話 子育てwww（前書き）

祭とか映画とかで更新遅くなりました！

8話 子育てwww

フヒヒwwwwwwサーセンwwwwww秋ですwwwwww

どうやら昨日はネギ君が惚れ薬を飲んで宮崎のどかにフラグを立てたようです

そして今は部屋に居ます

「ヒッグ、智代おゝ・・・いい話だった・・・ホントに」

今パソコンで智代アフターをやり終わった所です

「凄い泣いてますね」

フツ悲しい奴だ、このギャルゲーを知らないなんて

「お前に出来るか？全てを投げ出してまで愛する人を愛する事が」

ホントにいい女だよ、智代さん。結婚するならあんな感じの人がいいな

「で、出来ますよ！私だって！」

「てかお前は俺の物だからつまり奴隷だから元々なにもないかwww」

とりあえずもう一回パソコンをやるか

「……私は人権もないんですか」

また崩れ落ちた

「次なんのギャルゲーしよっかなあ」

恋姫＋無双の無印やろっかな

「って秋さん！学校！もう朝です！」

ええー今から恋姫＋無双の無印やろうと思ってたのに

「……はあ………行くか」

ちうたんをいじりにwww

学校（一時間目）

「ああ………暇だ」

今日はネギ君じゃないから変な事出来ないし……

「……ちうたん休みだし」

あのやろう逃げやがったな

「……………さいしよはグー、じゃんけんポン……………あいこでしよ……………あいこでしよ……………あいこでしよ……………」

一人じゃんけんしてます

授業終了

「あいこでしよ……………一人じゃんけんして一時間目終わるか」

ヤバイ、泣きそうｗｗｗｗ

「おい！近衛秋！」

ロリ金髪が現れた！

「なんでそうか？」

秋はとりあえず理由を聞いた

「別に理由はない！」

……………秋は逃げ出した

「なんなんだよ、あのロリ金髪は」

汗かいたじゃないか

「……秋さん、何で私を連れてきたんですか？」

教室を出る時に刹那が目に入っただので連れてきましたww

「暇だから」

「………クスン（泣）」

しかし教室に戻るとしてもモンスター（エヴァンジェリン）が居て強制戦闘イベントが発生するしな……

「ん……刹那」

「はい？」

「子供を育ててみたい」

言っただとたんに刹那は意味がわからないという表情をした

「・・・・・・・・何故育てたいんですか？」

あくまでジト目で聞いてくる

「その子供を俺色に染め上げるためじゃないか」

あつため息つかれた・・・・・・・・腹立つな（怒）

「・・・・・・・・秋さんには子育ては無理だと思います」

思いますよ？じゃなくて思いますっか

「うん、多分俺も無理だと思う・・・・・・・・そだ！歳が幼いから無理なんだよ！」

「どういう事ですか？」

「だから、子育てがしたい、でも俺には2歳や1歳の子供を育てる自信がない・・・・・・・・だから刹那を育ててみようと思います！」

刹那はホントに意味がわからないって感じた

「・・・・・・・・何故私は秋さんに育ててもらわなければいけないのでしょうか？」

顔の表情が全くないぞ

「刹那に赤ちゃんの格好させて俺が育てます！なら手がかからないじゃん？お前夜泣きとかトイレくらい自分で出来るだろ？」

「当たり前です！というか絶対嫌ですそんなの！！」

自室

「ばっ……ばぶ／／」

さすが俺の物だ、最後にはちゃんと言う事聞くね

ちなみに今の刹那の格好は口におしゃぶり、首によだれかけ、服は赤ちゃんが着てそうな服……ピッチピッチだけどwwww、あと刹那が居る場所は赤ちゃんが寝てるような場所に入ってる、はみ出てるけどwww

「……っで、俺は何をすればいいんだろ？」

「やること決めてからやってください！！」

おおゝかなり怒ってらっしゃる、まあ14才が赤ちゃんの格好させられりや怒るよなwww

「んゝ、せつちゃん何してほしい？」

ちょっと幼い子に言うように言ってみた

「ううゝ、別に何もしてほしくありませんよゝ」

さつきからずっと顔真つ赤ww

「つかせっちゃんよ、ちゃんと赤ちゃん言葉で！はい！どうぞ」

「あっあうだう／／／／／」

フヒヒwwwwテラワロスwww

「…………子守唄でも歌ってやろうか？」

「あう！？」

ちゃんと赤ちゃん言葉を守りながら聞いてくるとは、なかなかやるな

「いや、俺の中で子供＝子守唄って言う方程式があるくらい定番なわけで。とにかく、よっこいしょ！」

俺は刹那を抱き上げて、刹那をお姫様抱っこした

「え！？ちよっ！待ってえや！」

「問答無用！つかおしゃぶり落ちた」

そして落ちたおしゃぶりをまた律儀にくわえた刹那が居るww

「…………メルト溶けてしまい」

子守唄しらないのでメルト歌ってみたww

10分後

「んうゝ・・・スウゝ・・・チュパチュパ」

刹那は寝てしまった、今は俺に顔を埋めるようにして寝てる。たまにおしゃぶりを吸ってるようだ・・・・・・フビビビビビビ
www超！楽しいwww

「・・・つかだるくなってきたな」

正直もう飽きた

ガチャ

ん？誰が入って来た

「お兄ちゃん、授業始まるえ・・・・・・何しとん？」

入って来たのは木乃香だった

「・・・子育て」

「せつちゃんは立派な中学生やで？」

知ってますがな

「ん？なんやうちほんまに寝てもう・・・・・・何でこのちゃんが
此処に！！？」

腕の中で暴れるなよ刹那

「せつちゃん……なんや面白そうな事しとるな」

珍しい、木乃香が笑いを堪えてる

「ちつ違うねん！これは秋君に無理矢理やらされて、ってこのちゃん！待って！何処行く「ボタン！」……………」

刹那が話かけてる最中に部屋を出て行った……………笑いが堪えきれなくなっただろうな

「うう……………もうええ！！」

そう言って起きる前の体制をとった、つまり俺の胸に顔を隠すようにした

「何すんだよ」

「うち、もう一回寝る」

目を閉じようとしたので

「……………ホイ」

お姫様抱っこしてる腕を離した

「イタ！……………何で落とすんですか？」

落ちた時にお尻をぶつけたのかお尻を摩りながら聞いてきた

「だるい、飽きた、寝る」

俺は自分のベットに入り寝た、次の授業なんかしるか。眠いから寝る！

「・・・・・・・・馬鹿・・・・・・・・馬鹿」

その後風呂場で制服に着替えて学校に行った刹那がいた・・・・・・・・
ついでにモンスター（エヴァンジェリン）倒してきてね

8話 子育てwww（後書き）

今回の話は完璧に自分の趣味です！

9話 ドッジボールwww

どうもwww刹那で遊びまくった秋ですwww

ちなみに今は暇なので学園をブラブラしてます、え？暇なら部屋でギャルゲーでもするのと思ったって？

たしかに俺まそうしたかったよ？でも今部屋で刹那がヒッキーして部屋に入れないんです、そんなに昨日のが堪えたか

「んゝ・・・暇だ「キャア！」大河内の悲鳴だと！！！」

大河内の悲鳴がした場所に向かった

コート

悲鳴の場所に来ると大河内とその他が高校生？かよくわかんない人達にボールを当てられてた

「（・・・潰す！！！！あのババアどもマジでぶっ潰す！！！！）
テメエラ！！！！何しとんじゃ！！！！？」

大河内とその他にボールを当ててるババアどもに言った

「！！！！？・・・あつ貴方こそ何なんですか！？此処は女子校よ！」

大河内とその他に暴力ふるつといてその態度か？スクールデイズの誠、並にムカついたぞ！？

「俺は大河内とその他の担任じゃボケ！！その他はいいよ、でも大河内は駄目だろ！！？大河内の肌に傷でもつけてみる、一生心に残る傷をつけてやるぞ？」

殺気満載でお送りさせていただきます

「ヒツ・・・あつ・・・あ・・・」

ババア達は地面に座り込んでしまった・・・それで許すとしても？マジで潰すよ

「さあ、お前の罪を数え「待ってくれ！秋君」なんだ、タカミチじやん何でいんの？」

知らないうちにタカミチが俺の後ろにいた・・・あつ「俺の後ろに立つな！」ってやり忘れてた

「そりゃ、あんなに殺気と魔力を放出していれば、ね？」

おっと！殺気はともかく魔力まで出ていたか

「ふう、しかたないな。後はタカミチに任せるよ」

久しぶりに魔力と殺気を出したからかな？疲れたから部屋に帰る

S i d e タカミチ

なんとかあったね、しかしやはり魔力量はかなり多いねあと殺気も

「ほら、君達もいつまでも地面に座ってないで自分達の教室に帰らないさ」

そう言って高校生の子達はゆっくりと立ち上がって放心状態で教室まで帰って行った

「大丈夫だったかい？」

今度は秋君とネギ君のクラスの子に話かけた

「・・・あつ大丈夫です」

大河内君だっけ？その子が一番最初に我にかえった

「しかし秋先生って怒ると怖いんやね？自分が怒られとる訳やないけどかなり緊張したで」

亜子君も我にかえったみたいだ

「そつだにやゝ、つか私達の扱い大河内とその他って！その他って！完璧に私達を助けた理由がアキラが絡まれてるからじゃん！」

裕奈君も、まあとにかく外傷がなくてなによりだ

「それじゃ、僕はこれで失礼するよ」

その場を後にした

S i d e 秋

「あ、あ、テスト。桜咲刹那！お前はすでに包囲されている！おとなしく出てきなさいもしくは鍵を開けなさい！」

メガホン片手に俺の部屋を占領している刹那に向けて言った

「いやです！今は穴があつたら入りたいくらいに恥ずかしいんです！！」

だから立て籠もりか、てか

「刹那！お前が穴に“入る”んじゃないくてお前は穴に“入られる”側だろうが！」

ちゃんと間違いをすぐに教える、教師って素晴らしい！

「……馬鹿！そう言う所が駄目ですよ！！」

自分の物に馬鹿って言われた……お前も自慢できる成績してないだろ？

「……開ける！捨てんぞ！段ボールに詰めて段ボールの表面に『捨うな！危険！』って書くぞ！」

「捨てられたうえ、『捨つな！危険！』ですか！？……………」
「わかりましたよぉ」

渋々と言った感じにやっとドアを開けた

「やっと開けたか、とりあえずお仕置きだな」

こんな手間をかけさせたんだからな

「うつ……………何ですか？」

慣れてきたな、コノツコノツ

「……………ロータ○入れっぱなしで一日か、ネコミミを
一日じゅう装着かどっちが「ネコミミで！」」力強い返事をありが
とう」

お仕置き決定！

朝

「フヒヒｗｗｗｗ似合ってんぞ刹那ｗｗｗｗｗｗ」

マジでネコミミ付けてやんのｗｗｗｗちなみに色は黒だよ

「うつ……………とにかく早く学校に行って帰ってきましょうノノ

／／
」

学校（一時間目）

「・・・刹那さん、装飾品は」

ネギ君、いい間だった！

刹那はホントに授業中もネコミミ付けてるwww

「・・・秋さんの指示です」

刹那がそう言うときまるで何もなかったように授業がまた始まった

「・・・ちうたん、何で皆俺が刹那にネコミミ付けさせてる事が当たり前みたいに授業に戻ってんの」

ちなみにちうたん復活

「このクラスはお前の名前が出たら学校にテロリストが来ても平然としていられるくらいになっちまったんだよ」

・・・

「・・・俺って凄いや違うよ！普段のお前に驚かせられすぎて、もうそれくらいじゃ驚かなくなっただよー！」・・・やっぱり俺

「凄いじゃん」

皆の耐性が増えるのは先生とってもうれしいです

「これでもっと派手な事が出来るじゃないか！」

「・・・・・・・・・・無理」

あっちうたんがまた寝た、耐性はどこに行った？

体育の授業

原作どうりババアが先にコートに居て何故か対決する事に

「・・・・・・・・刹那、何でドッジボールで対決する事になってんの？馬鹿なの？うちのクラス、あつ大河内は別で皆馬鹿なの？」

「・・・・・・・・なんでそこで大河内さんは抜くんですか」

何当たり前の事を、お前らと大河内をでは明らかに違っだろ？胸の差でノノノノノ。今俺上手い事言ってなかった？

「とにかく、大河内がボール当てられるような事があつたらあのババア共の腕を折るくらいの事はしないとな」

そう言っ腕を折る準備運動をし始めた

「・・・・・・・・勝つ為の準備運動をしてください」

試合開始

「・・・・・・・・・・」

「・・・・・・・・ヘタクソ」

開始と同時に当てられました、だって人数多くて逃げられないんだもん

その後ネギ君が原作の用にババア共を脱がして勝利した

「・・・・・・・・ヘタクソ」

「黙れ、ネコミミ野郎が」

10話 テストwww（前書き）

お久しぶりです！

なかなか更新出来なくてサーセン

10話 テストwww

どうも、最近エヴァンゲリオン新劇場版を見てちょっと感動した秋です

事件です、ネギ君が試験内容が発表されました・・・・・・・・・・
事件じゃないな

「はあ・・・・・・・・だる」

先生って以外にも大変なんですね、テストの問題とか作らないといけないし

「・・・・・・・・刹那は馬鹿だし」

「何でいきなり私を出すんですか」

だってホントに馬鹿なんだもん、お前はあれか？ツッコミしか悩がないのか？新八か！

「・・・・・・・・馬鹿・・・・・・・・」

「・・・・・・・・心が痛いです（泣）」

しかし原作ではバカレンジャーとネギ君が図書館に行くんだっとな・・・・・・・・

「・・・・・・・・大河内行かないなら俺も行かない」

ネギ君なんか知るか、こっちは大河内の好感度上げてエロシーンに行くって夢があるんだから！

「しかし好感度を上げるにも何かイベントがなければ……」

んゝ何も思い付かない、とりあえずテレビを付けてみる事に。ちなみに今は俺の部屋です

そしてテレビで流れていたのは

「次のニュースです、中学校の男子教師が女子中学生に暴行をはたらいたとの情報が入ってます。何でも男子教師が女子中学生と二人つきりで勉強会をしている時に男子教師が「ああゝ何だろ？ムラムラしてきた」と言って女子中学生に暴行をはたらいたもようです」

そうニュースでやっていた

「……………そうだ！これだ！！」

やっべ、ピーンっと来た！！

「……………何ですか？お願いですから警察に厄介になるような事にならないでくださいよ」

お前は何かい？テレビでやってた男子教師みたいな事をやると思ってたのか？

「違うよ、勉強会だよ！勉強会を開いてまあ大河内だけ誘ったら怪しまれるからクラスの皆を誘って勉強会をしようじゃないか」

勉強会を開いて大河内に手取り足取り教えてテストでいい点を取れば好感度が上がるんじゃないのか？

「フヒヒwwwさあ！準備に取り掛かるぞ！刹那！」

「やっぱり私もやらないといけないんですね」

翌朝

朝になり、学校に行くと原作のように委員長を始め皆が慌てていた

「（さあ、ショータイムだ）皆さん、どうしましたか？」

ここでいつものようなテンションでいれば計画がだいなしになる可能性があるので、今は教師らしくして

「秋先生！ネギ先生が！ネギ先生が！」

シヨタ野郎がうるさいけどあくまで冷静に

「わかっています、でも大丈夫です。彼等は無事です。でも今は他にやる事があるでしょう？」

俺がそう言うクラスの中の誰かが

「そうだよ！ネギ先生達の無事がわかったんだから今度は私達に出来る事をやろうよ！」

・・・？、誰だっけ？まあそれより！

「そうです！このままボーっとしていても意味がありません！しかもネギ君はこのクラスが最下位から脱出しないとクビになるそうじゃないですか！なら、勉強会をしましょうよ（笑顔）」

皆に伝われ！俺の熱い下心！・・・間違えた、俺の熱い思い！

「・・・そうだ！勉強をしよう！」

朝倉が『そうだ！京都に行こう！』みたいな感じに言った

「先生その言葉を待ってました！！教室は用意してあります！それでは皆さん刹那について行って下さい！」

そして皆が刹那を先頭にぞろぞろと用意した教室に向かって行く

「・・・待てよ、タツミ」

タツミが一人だけ自分の部屋に戻ろうとしていた

「柄じゃないんでね」

待てよこの野郎、俺はクラスの平均点をあげて大河内の好感度アップさせなきゃいけないのに『柄じゃないんでね』の一言でやめられるか

「・・・揉むぞこの野郎」

「やってみるか？」

フツツと鼻で笑った後にそう言いながら銃を構えた

「トレース・オン
投影開始……やってやるよ」

俺は今は刹那が使ってる『夕風』を投影した

「……………」

「……………」

俺とタツミーの睨み合いが始まった

「……………」

タツミーが静かに右に動いた時に俺は動いた

「行くぞ！」「何が行くぞ！だ」あびし！

いきなりちうたんが後ろから蹴ってきた

「何すんだよ！ってタツミー逃げんな！ハ……タツミーが逃げたじゃんか、ちうたん」

「だから『ちうたん』って言うな！あとお前なんで自分の生徒と胸揉むためにガチバトルしようとしてんだよ！」

何を言ってるんだ！

「タツミーの胸はガチバトルしてでも揉む価値はある！」

俺がそう言ったあと、ちうたんが部屋に帰ろうとしたけど『今、部屋に戻ったら明日からクラスはちうたんの噂でもちつきりになるなあ』と独り言、あくまで！独り言を言ったら俺が用意した部屋に素直に行ってくれた

「……教師って素晴らしい」

秋が用意した教室

教室に來ると皆、真面目勉強してる……真面目……勉強……

「……刹那こっち来い」

俺は真面目に勉強してる刹那を引っ剥って教室の隅に連れてきた

「おい、何で皆真面目に勉強してんだよ」

「いや、秋さんがネギ先生のために頑張ろうみたいな事を言ったら皆さん真面目に頑張ってるんじゃないですか」

だからって皆が皆、真面目に勉強すんなよ。俺が付け入る隙がないじゃん。大河内も真面目に勉強してるし

「……あつ、委員長。ここわかんないんだけど」

大河内は俺じゃなくて委員長に勉強の事聞いてるし

「・・・・・・・・ん？・・・おい！お前！・・・おい！」

ちうたんが誰かを呼んでるみたいだ

「・・・・・・・・秋先生」

「なんだい、ちうたん」

いや、別に最初はめんどくさいから無視してただけで。別に！先生
って言われて嬉しいかったからつい返事をしてしまった訳じゃないよ

「わかんないけど」

そう言って数学のプリントを俺に見せてきた

「・・・・・・・・x・・・a・・・・・・・・アレだ・・・委員長に教えてもらえ」

いや、けしてわからない訳じゃないよ？たまにあるでしょ？小学生
の漢字がわからない訳じゃないけど、ど忘れしたみたいな

「お前マジで教師かよ」

そう俺を罵倒して委員長の元に行った

「大卒くらいの学力があるんじゃない？」

あくまで俺の顔を見ないで言ってきた。まるで『別に貴方に言っ

るんじゃないありませんよ』って言ってるみたいだ……腹立つ

「ただのど忘れだ、あとこっち見て言え」

俺は刹那の頬つぺたを掴んでこっちに向けた

「ふみません……れも、プツ・因数分解がわかんないなんイ
タタタタ!!ごめんなさい!ごめんなさい!」

腹立つ、マジ腹立つ……殺るか

「……何がいい?チクBにピアスかスカートで一日中逆立ちか」

「え!?その二択ですか!?……別の選択は?」

何言っちゃってんだろうねえ、この馬鹿は

「あるわけないじゃん、ご主人様を馬鹿にした罪は重いんだよ」

「……なら……いや、でも……スカートで」

なんだい、素直じゃないか

「まあとにかくやるぞ……てか暇だな」

皆さん真面目に頑張ってるし、問題がわからない人は委員長か超とか頭のいい人に聞くから誰も俺に聞いてこない

「……刹那、お前何か俺に質問してみろ」

誰でもいいから俺に質問して！

「え！？・・・・・・・・どんな人がタイプですか？」

そんな質問を期待してんじゃないんだよ！

「・・・・・・・・お前と体の作りが真逆の人」

「私じゃ駄目って事ですか」

お決まりの服従ポーズをとった刹那

「・・・・・・・・はぁ・・・・・・・・飽きた・・・・・・・・帰る」

それから俺はテストの日までギャルゲーをしまくりました

11話 山3姉妹www(前書き)

オリキャラですが何かwww

11話 山3姉妹www

突然ですが、俺は教師です。まあ今までの話を読んでいる読者の皆さんにはわかっていただいていると思いますが

何故こんな事を言うかと言うと。2・B以外の場所でも授業をします。そして今、現在進行中でやっています

「……あつちなみに自習です」

でも教室にいます。何故授業をしないんだ、だって？めんどくさいからwww

「……ミサカはミサカは……フヒヒwww」

ちなみに今は暇だから『とある魔術の禁書目録』を読んでいます

「先生！！自習でやってた漢字がノート全部に書き終わりました！」

この俺の事を先生と言ってくれる数少ない生徒の山本三春^{やまもと みはる}だ。

つかよく自習で勉強なんかできるな

「ああ、やっぱり見なきゃいけないのか？しかたない、見るか」

「はい！どうぞ！」

山本が頭をきつちり50°に曲げながらノートを渡した

「……山本、何で『好き』と『愛してる』しか書いてないんだよ。よく同じ文字ばかりでノート全部埋められたな？あと中学生の勉強をしろ、好きも愛してるも小学生の漢字だ馬鹿」

ノートを山本の頭に投げ返してからまたとある魔術の小説を読んだ

Side 山本

先生に私の思いが書いてあるノートを思いつきり投げ返された

「うう、これで何回目の失敗だ？」

トボトボと自分の席に帰りながらそんな事を言った

【多分、13回目だったと思う】

この子は山中潤^{なかやまじゅん}で私の親友の一人、潤の特徴はカンペで私達と話す事です。話せない訳じゃないけど無口キャラに憧れてカンペを使って喋ります。馬鹿な子です

「結構多いよね？じゃなかった！あんたホントに馬鹿じゃないの！？」

この子は山内暎^{やまうちめい}でこの子も私の親友です。特徴はツンデレに憧れて喋り方をそれっぽくしてるところです。ホントは凄くいい子です、愛すべき馬鹿な子です

そして私達はほとんど一緒にいるから先生に『お前らって苗字に山

って入ってるな、だからあだ名は山3姉妹なwww』と秋先生に言われました。気に入ってます／＼

「潤ちゃん！瞑ちゃん！どうしたらいいのかな！？」

答えて！私の親友達！

【お・て・あ・げ】

「んゝわかなな・・・わかるわけないでしょ！？」

皆もわかないかあゝ、あつ！先生みたいに言ったらチクソウ！か！

【そうだ、とりあえず秋さんと食事してみたら？】

さすが潤ちゃん！いつてくるぜ

「・・・・・・・・・・」

「どうしたのよー！」

いや、瞑ちゃん

「・・・どう先生を誘っていいのかわかない、一緒に来て（泣）」

一人じゃ淋しい三春です（泣）

S i d e 秋

「おら、早く逆立ちせんか」

「待って下さい！せめてスパッツを！てかスパッツかえしてください！！」

今、この前やり忘れてたスカートで逆立ちを2 - Bの教室前の廊下でやらせようとしてます

「やだ、というかお前。あの二択ですぐにスカートで逆立ちを選んだのは『スパッツ履いてれば大丈夫だな』とか思ってたんだろ。あとスパッツ全部捨てちゃった」

だから刹那が起きる前に刹那のスパッツを全部捨てました

「なっ！？貴方それでも教師ですか！！？」

「だから！教師である前にブルジョアです！ブルジョアである前にお前のご主人様です！！」

ナメんなこの野郎

「ううゝ……見ないでくださいね／＼」

大丈夫、お前のパンツに興味はないがお前が誰かにパンツを見られて恥ずかしがってる顔には興味あるが

「フヒヒwwマジでやった」

刹那逆立ち中www

「先生！！今、大丈夫ですか！」

ん？階段の方から山3姉妹が来た

「別に大丈夫だけど、何？」

ちなみに刹那は俺の横で逆立ち中です、山3姉妹は気にならないのか？

「えっと・・・あの／＼・・・駄目だ!!」

そう言つて山中に抱き付いた山本

【秋さんは明日のお昼空いてますか？】

そう書いたカンペを山内が俺に見せた

「そうです！先生は明日のお昼は予定が!？」

山本復活！

「んゝ、別にない」

「じゃあお昼と一緒に・・・お昼と一緒にしてあげてもいいんだからね！」

どうも山内の喋り方は俺に好意があるんじゃないかと思ってしまう
俺は重傷患者

「べつ別にいいけど／＼別に暇なだけだからな！お前が好きでお昼を一緒にするんじゃないからな！！」

そしてノリで俺もツンデレになる俺はホントに末期だと思う

「ありがとうございます！！じゃあ明日迎えに来ます！」

そして山3姉妹は帰って行った

「・・・・おモテになる事で」

逆立ち中の刹那が少し刺のある言い方で言ってきた

「当たり前だ、何たって俺はブルジョアだからな！」

「・・・・・・」

俺がそう言つと逆立ちしながら自分の部屋に刹那が帰りだした

「刹那・・・・今のお前・・・・かなりおもしろいwww」

逆立ちしながら帰る女子中学生、都市伝説並だぜ

とりあえず俺も今日は帰る事に

翌日の昼

「先生！たまご焼きをどうぞー！」

「アム・・・アム・・・アムロ・・・うん、美味しい！」

はい、昨日の約束ど通りに学食に来てます。あと何でも山本がお弁当を作って来てくれます。美味しいです

「何処かの半でこと違って」

何故か俺の右隣の席をキープしている刹那に向けて言った

「うー！たっ確かに料理はできませんが、秋さんに対する思いは負けません！」

そして左隣に居る山本に殺気を送る刹那

「フツ、何もわかってませんね。愛！があれば何だって出来るんですよ、現に私は昨日の夜まで料理はできませんでした」

さすが馬鹿だ、馬鹿は偉大だな。何でも出来る・・・馬鹿だけど

【あれは酷い・・・うん、酷かった】

そして右前に居る山中が昨日の惨劇をカンペで語ってる

「・・・それはあれですか？私より貴女のほうが優れていると？」

「いや、そこまではいいえん・・・いいませんが」

馬鹿が悪女ぶるから噛むんだよ

「・・・・・・・・秋さん！私この人が嫌いです！！」

そんな涙目で訴えられても

「でも俺は好きだぞ？」

俺がそう言つと山本は信じられないくらい赤くなり、刹那は死にたいに顔が青くなった・・・・・・・・俺が黄色になれば信号だな（笑）

「え？・・・・・・・・え？あの・・・・・・・・え？」

刹那の目からボロボロと涙が流れてる

「・・・・・・・・ハッ！！せせつ先生！！／＼ホントですか！」

こっちは刹那が見えないようでテンションが上がってる、山内と山中は刹那と山本を交合に見てかなり混乱してる

「ああ、お前おもしろいし。見てて飽きないwww」

「そうですか／＼／＼つで、式はいつにしましょうか？キャ／＼三春、まだ式は早いよ／＼／＼」

山本が馬鹿になつて行く・・・・・・・・前からか、てか何だよ式って？

「・・・・・・・・秋君・・秋君は教師やる？・・・・・・・・そんなんアカンよ・・そつや！PTAに訴えるで！！」

刹那が俺を脅すとは、てかそろそろ涙を止める

「なら俺は『くたばれPTA』をPTAの前で歌ってやるよ（笑）」
俺結構、あの曲好きだし。

「あとさつきから何！？式とか訴えるとか！俺何かした！？

そう言ったら此処に居るみんながビックリマン・・・ビックリな表示を

「なっ何って、秋さんが三春ちゃんに『好きだ』って言ったじゃないですか」

山内がツンデレ言葉を忘れてそう言ったけど

「いや、それは生徒としてな？あと俺にはいろいろと立てないといけないフラグもあるし。第一に！俺は大河内みたいな人が好きなの、馬鹿もドMもおよびじゃありません」

それを聞いて安心？した刹那と放心状態になった山本が服従のポーズ

「そっそうでしたね・・・秋さんは大河内さんみたいな人が好きなんでしたよね」

「・・・乙女心を・・・弄ばれた・・・」

なんだかんだでこの二人は意気が合つと思う

「じゃあ、面倒臭い事になったから帰る」

「あつ・・・秋さんが帰るなら私も帰ります・・・山本さんでしたか？・・・これからも一緒にがんばりましょう」

とりあえず部屋に帰って恋姫十無双の無印やるべ

S i d e 山本

「これからも一緒にがんばりましょう」

たしか桜咲さん？だと思っけど、そんな応援メッセージを残して先生と何処に行った

「・・・・・・・・・・」

「・・・・・・・・・・」

【・・・・・・・・プギヤ〜（＾＾）・・・・・・・・ごめん】

・・・私達の中で一人を除いて微妙な空気が流れる

「・・・馬鹿はいらないって言われちゃった・・・」

「三春ちゃん・・・とりあえずこれで涙拭いて」

瞑ちゃん、何を言って・・・・・・・・なんだろ。目から涙あつ間違えた、目から汗が

「ありがと・・・・・・・・ところで大河内さんって誰？」

知らない人に私はフラれたと思うとちょっと悲しいけどその人がどんな人が聞いてみたい

【水泳部のエース・・・三春は・・・クラスのエース（馬鹿の）】

・・・そう、あつち水泳部のエースという輝かし称号を持つ女。私は馬鹿のエースという不名誉な称号・・・ハハッ勝てる気がしない。私って気がつかないうちに汚されてたんだね

【・・・一つだけ、一つだけ逆転する方法が】

！！！！？

「潤ちゃん！教えて！エースと言っなの称号に犯された私がどうすれば水泳部のエースに逆転が！！」

【簡単よ・・・三春、脱ぎなさい。そして目指すのよ！水泳部のエースを！！】

そうか！その手が！

「三春・・・脱ぎます！！！」

三春はやります！

「（三春ちゃん、騙されてるよ。潤ちゃんに騙されてる・・・騙されてるんだからね！！）」

S i d e 秋

「あつ秋さん／＼／どうですか？／＼／」

部屋についてすぐに刹那が風呂場に行ったと思ったら刹那がスク水を着て出て来た

「・・・あつ！そう言えば明日大河内の居る水泳部がどつかと練習試合するんだった！必ず行かねば、早く寝よ」

遅刻したらいやだからね

「あの・・・秋さん？似合いませんか？」

ん？

「ああ・・・似合ってるぞ」

旧スクな所がまた・・・あれ、何でお前それを持ってる

「何でお前がそれを？」

「え？・・・有ったから・・・いつかなあ～って さっ！今日は寝ましょう！明日は練習試合ですからね」

そしてスク水のままでベットに潜り込んだ刹那

「・・・しかたない、今日は寝よう」

何で俺がひそかに持ってた旧スク水を刹那が持ってたかって事より、
今は明日に備えて寝よ

「…………でも罪はあたえます」

「……………（泣）」

11話 山3姉妹www（後書き）

反省も後悔もしていない！！
だって趣味なもの！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8016m/>

ネギま！に転生？ワロスwww

2010年12月12日10時43分発行